

## 事前評価個表

整理番号	19
------	----

地域（地区）名	<small>きたかみがわじょうりゅう</small> 北上川上流地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	岩手県	対象市町村	盛岡市ほか5町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>北上川上流地域は、県のほぼ中央部に位置し、東は北上高地、西は奥羽山脈で秋田県と接し、その中間に北上川流域の平坦地を有する1市4町1村を包括する地域である。</p> <p>本地域の森林面積（164,077ha）のうち民有林面積は、約6割にあたる102,212haで、人工林面積は、45,450ha、人工林率は44%となっている。</p> <p>人工林の齢級構成は、8齢級をピークに7～12齢級が全体の約72%を占めているなど、森林資源が成熟しつつあるものの、間伐が必要な4～9齢級の森林が50%を占めており、健全な森林を育成していくうえでも間伐等の森林整備が必要となっている。</p> <p>しかしながら、近年、林業採算性の低下や森林所有者の経営意欲の減退により、手入れが遅れた森林が増加するなど、森林のもつ水源かん養などの公益的機能の発揮に支障をきたすおそれがある。</p> <p>このため、北上川上流地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、意欲と実行力を有する林業事業者等による、集約化された計画的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、効率的な施業に不可欠な森林作業道の整備と搬出間伐や再造林等の森林整備を一体的・計画的に実施し、健全な森林の育成を促進することにより、森林の持つ公益的機能の発揮が可能となるものである。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,323ha 人工造林、下刈り、雪起こし、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,033,455千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 3.28
評価結果	<p>必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の公益的機能を高めるためにも事業実施は必要不可欠である。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

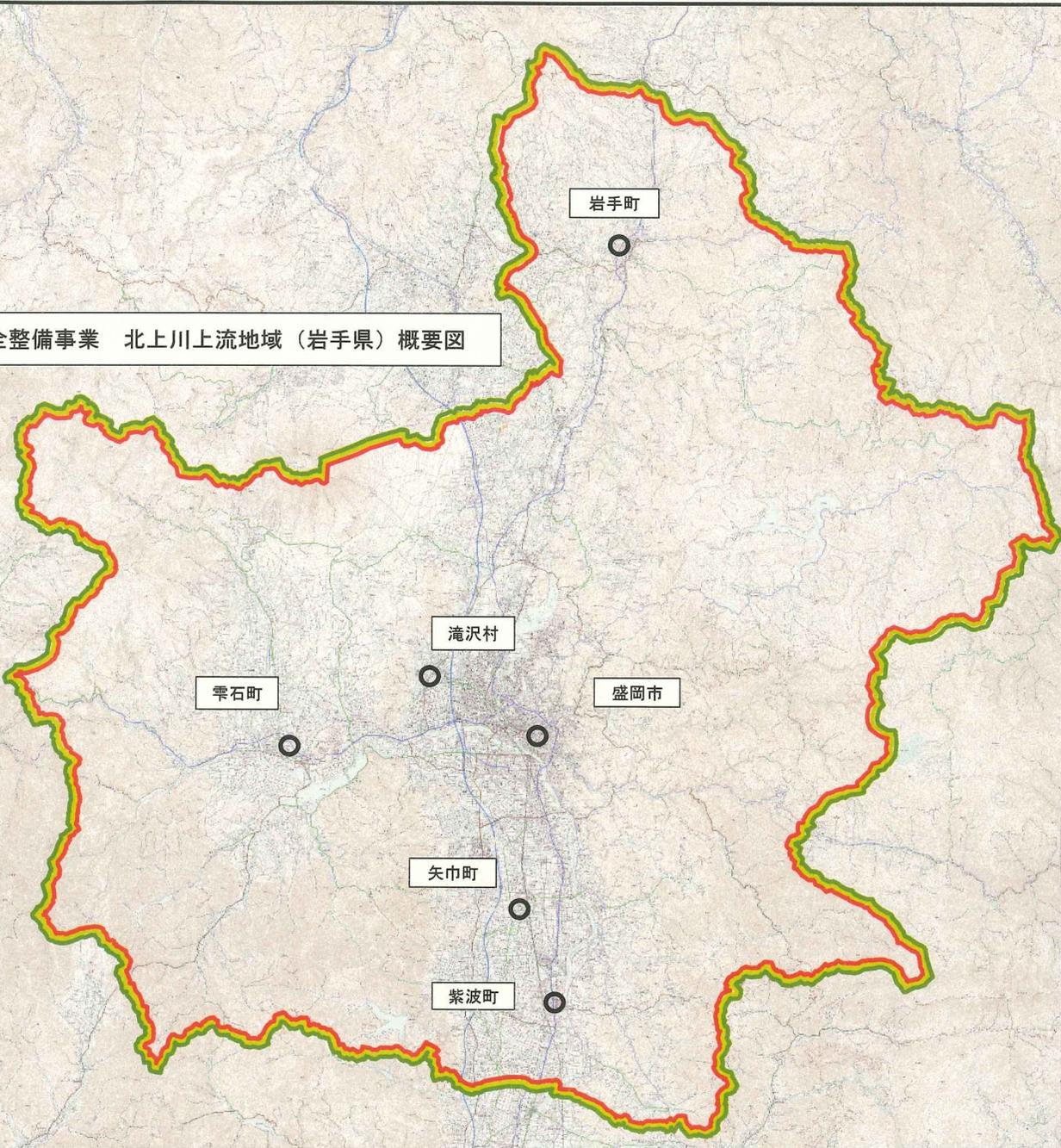
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 北上川上流

岩手県  
 (単位: 千円)

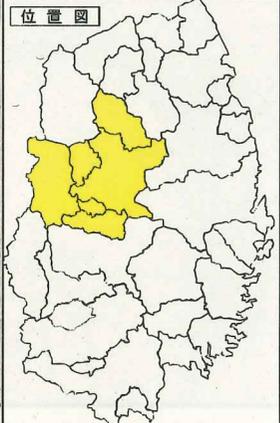
大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	1,741,127	
	流域貯水便益	572,238	
	水質浄化便益	976,917	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,574,432	
環境保全便益	炭素固定便益	555,865	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	797,041	
総 便 益 (B)		6,217,620	
総 費 用 (C)		1,891,004	
費用便益比	$B \div C = \frac{6,217,620}{1,891,004} = 3.28$		

森林環境保全整備事業 北上川上流地域（岩手県）概要図



凡例

計画区界	
事業区域	
森林整備	



## 事前評価個表

整理番号	20
------	----

地域（地区）名	<small>きたかみがわちゅうりゅう</small> 北上川中流地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	岩手県	対象市町村	花巻市ほか8市町
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合等

事業の概要・目的	<p>北上川中流地域は、県南西部の北上川中流流域の平坦部を中心とし、西は奥羽山脈の秋田県境、東は北上高地を境とし、南は宮城県境に至る5市4町を包括する地域である。</p> <p>本地域の森林面積（356,305ha）のうち民有林面積は約6割にあたる203,623haで、人工林面積は98,311ha、人工林率は48%となっている。</p> <p>人工林の齢級構成は、8齢級をピークに7～12齢級が全体の約73%を占めているなど、森林資源が成熟しつつあるものの、間伐が必要な4～9齢級の森林が66%を占めており、健全な森林を育成していくうえでも間伐等の森林整備が必要となっている。</p> <p>しかしながら、近年、林業採算性の低下や森林所有者の経営意欲の減退により、手入れが遅れた森林が増加するなど、森林のもつ水源かん養などの公益的機能の発揮に支障をきたすおそれがある。</p> <p>このため、北上川中流地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、意欲と実行力を有する林業事業者等による、集約化された計画的な森林施業を促進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、効率的な施業に不可欠な森林作業道の整備と搬出間伐や再造林等の森林整備を一体的・計画的に実施し、健全な森林の育成を促進することにより、森林の持つ公益的機能の発揮が可能となるものである。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：5,177.ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,407,961千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 3.77
評価結果	<p>必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の公益的機能を高めるためにも事業実施は必要不可欠である。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

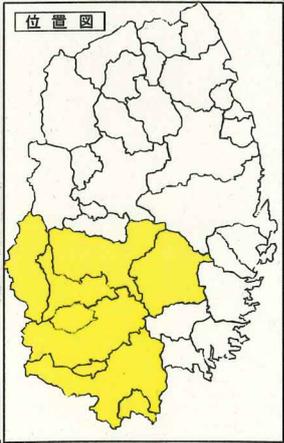
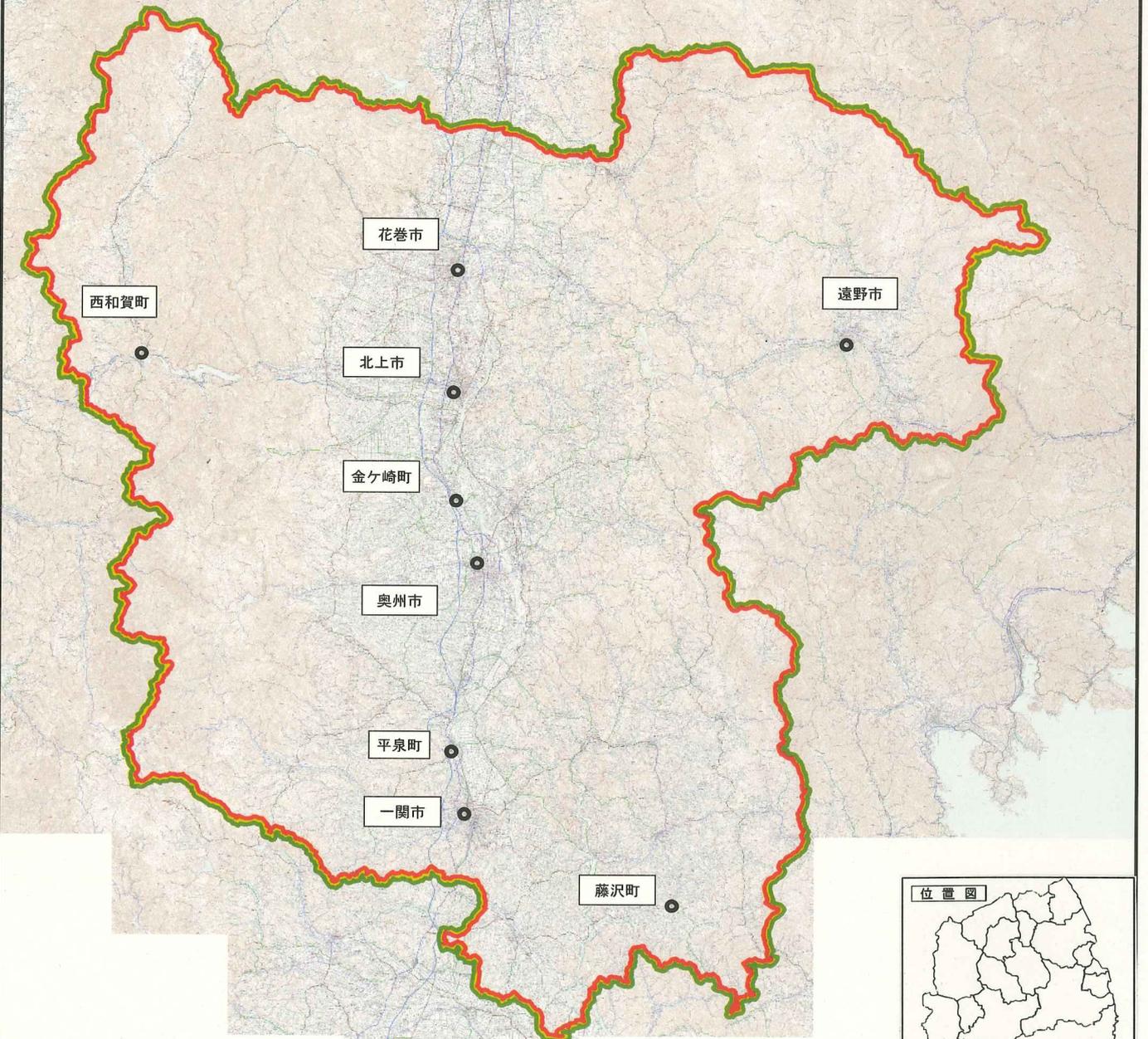
事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 北上川中流

岩手県  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	2,586,308	
	流域貯水便益	803,436	
	水質浄化便益	1,371,622	
山地保全便益	土砂流出防止便益	2,043,158	
環境保全便益	炭素固定便益	712,253	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	1,220,253	
総 便 益 (B)		8,737,030	
総 費 用 (C)		2,311,971	
費用便益比	$B \div C = \frac{8,737,030}{2,311,971} = 3.77$		



森林環境保全整備事業 北上川中流地域（岩手県）概要図



凡例	
計画区界	—
事業区域	—
森林整備	—



1:550000

## 事前評価個表

整理番号	2 1
------	-----

地域（地区）名	<small>みやぎほくぶ</small> 宮城北部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	宮城県	対象市町村	大和町ほか15市町村
事業実施期間	H 2 3 ~ H 2 7（5年間）	事業実施主体	市町村，森林組合，森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地域は、県のほぼ中央部から北部を包括し、南は宮城南部地域に、西は奥羽山脈を境として山形県と、北は秋田県及び岩手県とそれぞれ接し、東は太平洋に面する総面積450,272haの区域であり、森林面積は253,083haで、うち民有林が177,877ha（民有林率：70%）となっている。</p> <p>所有形態別は、県6%，市町村14%，私有林80%となっており、人工林率は59%で、県平均の54%を上回っている。なお、人工林の主体となるスギの年齢別構成を見ると、年齢級が最も多く、次いで年齢級が多いことから森林資源は着実に充実してきている。</p> <p>近年、水源かん養機能や山地災害防止機能及び地球温暖化防止機能等の森林が有する多面的な機能に対する県民の期待はますます多様化、高度化している。さらに、京都議定書に基づき地球温暖化防止のための温室効果ガス排出削減目標を達成するために、主な温室効果ガスである二酸化炭素の吸収源として森林の果たすべき役割は大きな比重を占めている。</p> <p>一方、林業を取り巻く情勢は、木材価格の長期低迷や経営コストの増大による採算性の悪化などが森林所有者の経営意欲の低下を招き、必要な森林整備が実施されない森林が増加しつつあるなど、森林の適切な管理の低下が懸念される状況にある。</p> <p>そのため、施業の集約化を推進し、効率的な生産基盤の整備を図ることで積極的な利用間伐の実施を行い、持続可能な森林経営の確立を目指す。</p> <p>本計画に基づき、森林の配置や年齢構成に応じた整備を行うことによって、森林の有する多面的な機能の発揮が確保される。</p> <p>森林の多くが農耕地に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局との連携を図っている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：10,510 ha 人工造林，樹下植栽等，下刈り，枝打ち，除伐，間伐等</p> <p>総事業費：3,226,560千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 2.12
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況，森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくりをすることによって、水源かん養及び国土保全等の機能の確保や将来の優良材の安定的生産に有効である。</p> <p>森林は、多様な機能を有しているが、これらの機能は一度失うと回復に長期間を要してしまうことから、適時適切な施業を計画的に実施することが不可欠である。</p> <p>本計画は、森林の重視すべき機能ごとに適切な森林整備等を計画しており、効率性、有効性も認められ採択要件も全て満たしている。</p> <p>このため、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 宮城北部

宮城県  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	3,282,658	
	流域貯水便益	984,618	
	水質浄化便益	1,680,936	
山地保全便益	土砂流出防止便益	859,069	
	土砂崩壊防止便益	20,073	
環境保全便益	炭素固定便益	6,021,729	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	927,107	
総 便 益 (B)		13,776,190	
総 費 用 (C)		6,470,839	
費用便益比	$B \div C = \frac{13,776,190}{6,470,839} = 2.12$		

